

| | |
|---------|---|
| 氏名 | 遠 藤 裕 介 |
| 授与した学位 | 博 士 |
| 専攻分野の名称 | 医 学 |
| 学位授与番号 | 博甲第 号 |
| 学位授与の日付 | 平成16年3月25日 |
| 学位授与の要件 | 医学研究科外科系整形外科学専攻 (学位規則第4条第1項該当) |
| 学位論文題目 | Three-dimensional gait analysis of adults with hip dysplasia after rotational acetabular osteotomy (成人股関節臼蓋形成不全患者に対する寛骨臼回転骨切り術後の三次元歩行解析) |
| 論文審査委員 | 教授 平木 祥夫 教授 光嶋 勲 教授 村上 宅郎 |

学位論文内容の要旨

寛骨臼回転骨切り術を施行した男性1例女性21例計22例（平均年齢30歳）の術前後の歩行の変化について、床反力計と三次元動作解析装置による歩行解析を行い客観的・定量的評価を行った。また性別・年齢・身長・体重を合致させた健常者22人とのデータの比較を行った。

術前の患者群は対照群に比べ歩行データは全般的に低値を示した。対照群では両股関節の運動角度はほぼ等しく左右対称であるのに対して、患者群では股関節運動角度は患側の伸展角度が健側に比べて低く非対称であった。術後に歩速、ストライド、患側の股関節運動角度、鉛直方向および前方方向の床反力、股関節伸展モーメントが有意に増加していた。また術後の疼痛スコアの改善と股関節伸展角度の増加に相関が認められた。患側の股関節伸展運動角度と伸展モーメントの有意な増加は、体幹の推進力の増加を意味していると考えられた。

寛骨臼回転骨切り術は股関節の応力を変えると同時に臼蓋形成不全患者の歩行をより健常者に近づける効果も期待できる。

論文審査結果の要旨

本研究は、成人股関節臼蓋形成不全患者に対する寛骨臼回転骨切り術を施行した男性1例女性21例計22例について、床反力計と三次元動作解析装置による術前後の歩行解析を行い、客観的・定量的評価を行った臨床的研究である。その結果、術前の患者群は対照群（健常者22人）に比べ歩行データはすべてが低値を示した。対照群では両股関節の運動角度はほぼ等しく左右対称であるのに対して、患者群では股関節運動角度は患側の伸展角度が健側に比べて低く非対称であったこと、術後に歩速、ストライド、患側の股関節運動角度、鉛直方向および前方方向の床反力、股関節伸展モーメントが有意に増加していたこと、また術後の疼痛スコアの改善と股関節伸展角度の増加に相関が認められたことを明らかにしている。

これらは、本症患者の術前後の歩行の変化に関して重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。